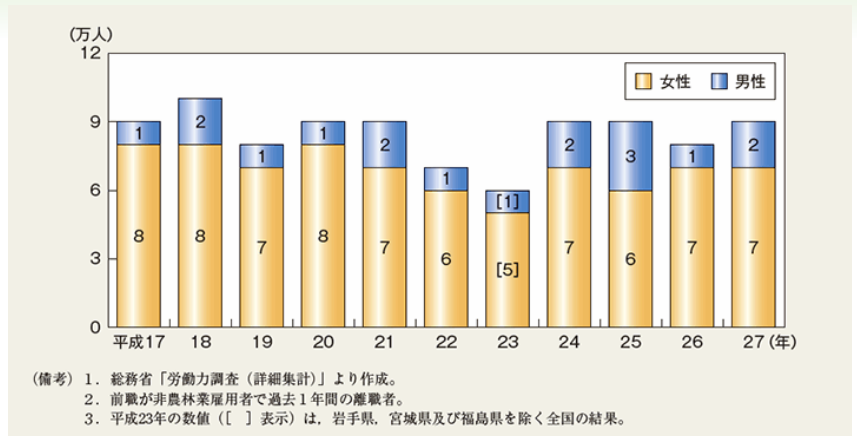


こうした問題の背景の1つに「長時間労働」があげられます。長時間労働を前提とした働き方では、仕事と家庭生活の両立は困難であること、長時間労働の削減は男性自身にとってもワーク・ライフ・バランスや地域活動等の時間確保の観点から重要で、男女が共に暮らしやすい社会に向けて大きな課題になっていると白書でも指摘しています。

(図3)介護・看護を理由とした離職者数の推移(男女別)



多様な働き方への取り組み

今後、このような長時間労働の是正に向け、職場である企業等の積極的な対応が求められます。企業等は、多様な働き方を実現するために、長時間労働の是正のみならず、育児休業を利用しやすい職場の雰囲気づくり、そして就業に当たって時間や場所の制約を受けにくいようフレックスタイムやテレワークを導入する等の柔軟性を持つことが重要となってきます。



また「多様な働き方」のもう一つの面として、伝統的に女性が少なかった産業や職業においても女性の参画を進めていく、という観点があります。白書の分析によると、保安職と呼ばれる自衛官・警察官等・消防員における女性の数と割合は、近年増加しています。今後は、政治・司法・行政・経済・理工(技術)系分野等、多様な分野での女性の活躍が望まれます。理工系分野では、現在、産学官が連携して女子生徒等の理工系分野への進路選択を応援する取り組み「理工チャレンジ(リコチャレ)」が進められていますが、このように企業と行政が連携した事業は、社会に与える影響も大きく、更なる前進が期待されます。

多様な働き方の実現に向けて

8月に発足した第3次安倍内閣は「一億総活躍社会」の実現化に向けて「働き方改革」担当相を新たに設置しました。さらに、各省庁も公共調達においてワーク・ライフ・バランス等を推進する企業を加点評価する取り組みや、自分たちから働き方改革を行うべく「霞ヶ関の働き方改革を加速するための懇談会」を立ち上げるなどしています。

私たちは、職場で、家庭で、どのような取り組みができるでしょうか。一人ひとりが、身近なところから「変革」し、多様な働き方社会の実現に向けて取り組むことが大切です。

高槻でも “ちびっ子”リコチャレ!

7月23日(土)に、「親子で科学あそび モールっこまをつくろう」(講師:山ちゃんとゆかいな仲間 代表 山本 志津江さん)を開催しました。親子で砂鉄を用いた実験を行い、磁石の不思議に迫りました。磁石のコマとモールの面白い動きにみんなドキドキ、ワクワク!! これをきっかけに、将来の「リケジョ」が生まれるかも!?

